

The tip of an

ICeberg

アイシーバーグ
サクラニュースレター

No.4

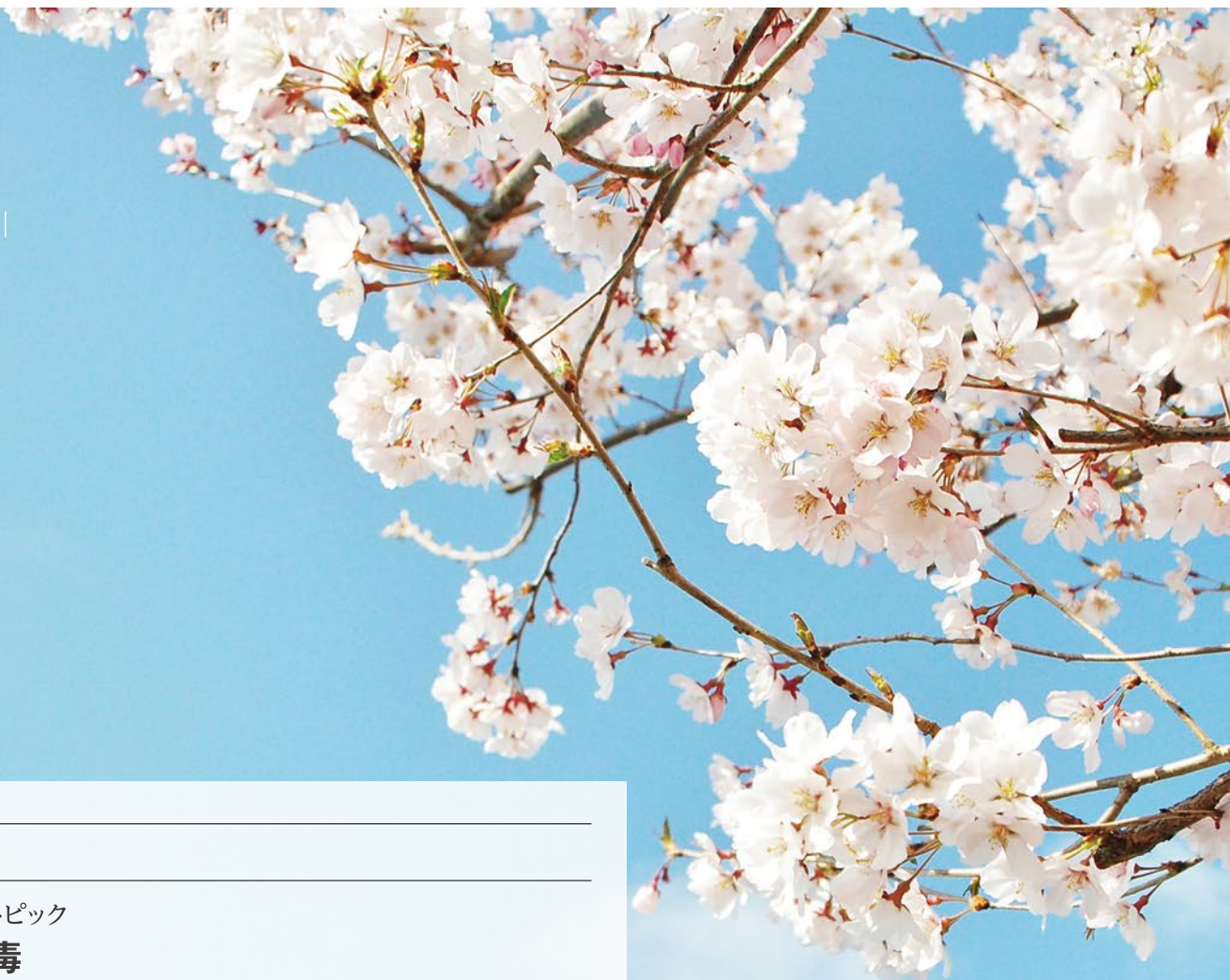
秋号

The tip of an ICeberg=氷山の一角

感染制御は見える部分だけでなく、見えない部分に多くの課題があることの象徴です



| 2016 | Autumn |



Contents

感染制御トピック

皮膚消毒

山形大学医学部附属病院 検査部・感染制御部 部長 病院教授 森兼啓太

[学会レポート]

第91回日本医療機器学会大会ランチョンセミナー共催

「リユース」と「ディスポ」を考える

東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座 総合感染症学分野 吉田真紀子

サクラとぴあの思い

セミナー・見学会・様々なイベントを実施中!

出展・セミナー情報

感染制御トピック 皮膚消毒

山形大学医学部附属病院 検査部・感染制御部 部長
病院教授 森兼啓太

カテーテル刺入や手術の直前には皮膚消毒薬が使われます。その薬剤には、消毒してすぐに皮膚切開や刺入が出来るための速効性と、その後の皮膚常在菌の増殖を抑える残留活性が必要です。しかし、2つの効果を併せ持ち、かつ皮膚に安全に使用できる単一の薬剤はありません。従って、2つの成分を混合した薬剤が必要です。

速効性はアルコール(エタノールまたはイソプロパノール)で異論のないところですが、問題は残留活性を持つ薬剤の方です。臨床現場では、クロルヘキシジングルコン酸塩(CHG)とポビドンヨード(PI)の主に2種類が使われています。両者の比較に関して様々な研究が行われてきましたが、臨床現場ではCHGがアルコールとの合剤で使用されることが多いのに対し、PIは単剤で使用されることが多く、適切な比較を行う研究が困難な状況にありました。

2015年から2016年にかけて、この状況に大きな変化がみられました。まず、カテーテル関連血流感染防止効果に関しては、2015年、CHG・アルコールの合剤と、PI・アルコールの合剤を比較する初めての無作為化比較試験の結果が報告されました。カテーテル関連血流感染の発生頻度は、前者が大きく優れているという結果となりました(1,000カテーテル使用日あたり前者0.28、後者1.77)。

2016年には、帝王切開時の皮膚消毒にCHG・アルコールの合剤またはPI・アルコールの合剤を使用して、創感染(表層切

開創・深部切開創の手術部位感染)発生率を比較する研究の結果が報告されました。創感染発生率は、前者で4.0%、後者で7.3%と、有意差をもって前者が優れているという結果となりました。

今後、皮膚消毒に使用される薬剤は、CHG・アルコールの合剤が主流になってくると考えられます。ただし、問題点がないわけではありません。CHGは粘膜面への適用が禁忌です。また、双方の研究で使用されたCHGは2%でしたが、日本には現在CHG・アルコール合剤として最大1%の濃度の製剤しかありません。2%製剤の早期認可が待たれます。

参考文献

Mimoz O, et al. Skin antisepsis with chlorhexidine-alcohol versus povidone iodine-alcohol, with and without skin scrubbing, for prevention of intravascular-catheter-related infection (CLEAN): an open-label, multicentre, randomised, controlled, two-by-two factorial trial. Lancet 2015;386(10008):2069-2077.

Tuuli MG, et al. A randomized trial comparing skin antiseptic agents at cesarean delivery. N Engl J Med. 2016;374(7):647-655.



[学会レポート] 第91回日本医療機器学会大会ランチョンセミナー共催

開催日:2016年6月24日(金) 会場:大阪国際会議場(グランキューブ大阪)

演題:「Fundamental Use of Surgical Energy(FUSE)に学ぶ
医療事故を未然に防ぐ!積極的な保守点検」

講師:渡邊祐介先生

(北海道大学大学院医学研究科 消化器外科学分野 II)

座長:東竜一郎(サクラ精機株式会社 代表取締役社長)

大会2日目にあたる6月24日(金)、ランチョンセミナーを共催しました。セミナーは「手術医療安全」をテーマとし、渡邊



ランチョンセミナーの様子

祐介先生から内視鏡外科手術中の電気メス使用時の鉗子絶縁損傷部が原因と思われる医療事故の事例報告や、良好な術野確保のためにライトガイドケーブルのファイバー破断を目視点検する困難

さを、調査データに基づき説明いただきました。セミナー中に手術鉗子絶縁箇所を検知する絶縁テスター「DIATEG professional」と、ライトガイドケーブルの光量を測定する光量テスター「ELT1100N3」を用い、聴講された方にご協力いただき、実演を織り交ぜたことによって、ヒトの感覚だけに頼らないテスト機器の重要性をしっかりと体感していただきました。

また、渡邊先生にはセミナー終了後に弊社出展ブースで臨時の相談コーナーを開いていただいたことで、セミナーで質問できなかった方が多数お越しいただくことができました。



絶縁テスター「DIATEG professional」



光量テスター「ELT1100N3」

「リユース」と「ディスポ」を考える

東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座 総合感染症学分野 吉田真紀子

ベッドパン(差し込み便器)、尿器、ポータブルトイレのバケツ。これらは再利用するものだ、と長年思いこんでいた私ですが、数年前に英国の病院を訪問する機会があり、以降、この考えは大きく修正されることになりました。

少し以前の話になりますが、2012年にリバプール(英国)で開催されたThe 8th International Healthcare Infection Society (HIS) Conferenceに参加しました。感染予防、医療関連感染、新興再興感染症、診断・治療などを網羅する感染制御に関する国際学会です。その際に、リバプールとロンドンの医療施設を見学する機会がありました。

私の英国の印象は、どちらかと言えば、「古いものを大切に使い続ける」といったものであり、それは、病院環境においても同様でした。実際、ロンドンのロイヤルフリー病院(写真1)を訪問



写真1. ロンドン ロイヤルフリー病院

したときの第一印象は、建物は古いがシンプルで清潔な病室、4床病室の脇には使いこまれたティーポットとカップがセットされている、そのようなものでした。

リバプールのBroadgreen University Hospital NHS Trustに訪問したときのことです。感染対策チームの活動を聞き、感染管理看護師とともに病棟ラウンドをしました。案内された汚物室は広々として、尿器もベッドパンもありませんでした。ベッドパンウォッシャーもなく、代わりに洗濯機のようなコロンとしたマシンが一台おかれていました。そこで「使い捨てのベッドパン」を初めて見たときの衝撃と感激は数年たった今でも忘れられません。

使用されていた尿器、便器、嘔吐用トレイ、洗面器は全てパルプ製のディスポでした(写真2)。特殊コーティングなので、漏れてきたり、破れたり、ということはありません。使用後は、マセレーター(macerator)とよばれる縦型洗濯機サイズの巨大ミキサーに、中身も一緒にぽんと入れます。ふたをしてスイッチを押せば、内蔵されているミキサーの歯が水と共に使用済みの尿器、便器を内容物ごと破碎し、流してしまいます。そこには、汚物室でベッドパンウォッシャーを用いて洗浄し、壁に設置された棚に立てかけて



写真2. ディスポのパルプ製ベッドパンと尿器

乾燥させる、というプロセスは存在しませんでした。数日後訪問したロイヤルフリー病院でも、同様に、汚物室はすっきり片付いていました。

考えてみると、感染性があるかも知れない体液(尿や便)を汚物槽に流し、それらが付着した容器を丁寧に洗浄する。そのプロセスは環境を汚染しますし、リスクそのものです。人の手間もかかっています。それをばっさりカットする合理性に衝撃を受けました。

なによりも、「あ、これは、自分でトイレに行って、使用後に水を流す感覚だな。」そう感じました。思えば、「トイレ」は進化してきました。溜める式から水洗へ。和式から洋式へ。「おしりだって、洗ってほしい。」というコピーとともにウォシュレットが普及し、便座はいつも暖かく、外出先では便座シートで快適。ところが、入院するとたちまち多くのことをあきらめ、受け入れなくてはならなくなります。床上排泄やポータブルトイレを使わざるを得ない場面で、きれいに洗われているであろう「使い古されたベッドパン」と、見た目は無愛想でも「ディスポのベンドパン」。患者として使う立場になったとき、どちらがいいかな、と考えます。

これから高齢者が増え、確実に介護のニーズが高まる場面を考えると、感染対策の面での利点だけでなく、リユースのために必要な洗浄・消毒・乾燥にかける手間をセーブするという発想もあるのではないのでしょうか。少なくとも、選択肢は多い方がいいのでは、と思います。

英国でのマセレータの導入に当たっては、話は単純ではなく、おさまらない多剤耐性菌アウトブレイク、経済的背景、労働力や雇用の背景、いろいろあったのだと思います。

でも、英国の使うものと捨てるもののバランスに、強く「イイね!」と思ったのです。

最後になりましたが、リバプールのBroadgreen University Hospital NHS Trust訪問の貴重な機会を作って下さったサクラグローバルホールディング株式会社の松本謙一さんに深謝申し上げます。



サクラとぴあ の 思い

セミナー・見学会・様々なイベントを 実施中!

マーケティング課 サクラとぴあ担当 上嶋晶子



サクラとぴあでは、外部の講師の方や弊社教育センターの講師によるセミナー・勉強会を開催し、最新の医療情報を皆様へご提供しています。また、様々なイベントも企画中です。先日、医療業界のとある団体のお客様が、サクラとぴあを見学にいらっしゃいました。その際、お子様もご来場され、マジックブックや折り紙でおもてなしをしたところ、喜んでいただきました。私たちも素敵な笑顔を見ていて、和やかな気持ちになりました。

現在、サクラとぴあでは特定非営利活動法人日本感染管理支援協会の土井英史先生をお招きして、「CSアカデミーinサクラとぴあ」を全4回に渡り開催しています。「中央材料室における再生プロセス全般」について講演いただいています。参加者の方

からは、「毎回楽しみだ」、「先生の講演は非常に勉強になり、他施設の方とお話しできとても刺激になっている」とのお言葉を頂いています。セミナー後の懇親会では、



「CSアカデミーinサクラとぴあ」の様子。

参加者の方々同士で情報交換をされており、交流の場としてサクラとぴあを活用いただいています。

今後も様々なセミナー・勉強会の企画を検討しています。ぜひ活用ください!

新製品情報

●マセレーター

英国製のパルプ製ディスボ容器の粉砕処理器です。シングルコースのため、感染対策に効果を発揮するとともに関連業務時間の大幅な短縮が図れます。



出展・セミナー情報

弊社主催のセミナー、学会での発表予定や今後の展示会、全国の研究会での出展予定です。弊社Webサイトの「研修・セミナー・展示会」ページもあわせてご覧ください。

■第21回 病院サプライカンファレンス

2016年10月22日

KFCホール

主催: 日本医療機器学会

■HOSPEX Japan 2016

2016年10月26～28日

東京ビッグサイト

主催: 日本医療福祉設備協会・日本能率協会

編集後記

厳しい暑さが身にこたえる毎日ですが、いかがお過ごしでしょうか?この暑い季節を乗り切るためにも、健康管理には十分気を配りたいものです。

社会人になると7月も8月も普通に仕事をしているので、学生の頃の長かった夏休みが恋しくて仕方がないです(笑)。これには共感していただける方も多いのではないのでしょうか?学生当時、社会人の先輩が「今のうちに遊べ!」とよく言っていました。

自分が社会人になるとその意味がものすごくわかります。私には大学4年生の弟がいるのですが、自分が言われたことと同じことを気付いたら言っていました。長期の夏休みを有効にたくさん遊んでほしいなと思います。私も今は長期の夏休みはないですが、それでも充実した夏を過ごしたいなと思います♪それではまた次回もご期待ください!



サクラ精機株式会社

編集・発行: サクラ精機株式会社 ヘルスクエア事業本部

〒104-0033 東京都中央区新川1-25-12 新川フロンティアビル

ホームページ <http://www.sakurajp.com>

サクラニューズレター [Ceberg] アイシーバード

No.4 2016年8月15日発行